

問一 傍線部 a～d のカタカナを漢字に改めよ。

a		b		c		d	
---	--	---	--	---	--	---	--

問二 傍線部 1「他の諸行動を補完する副次的な行動」としての遊びとはどのような行動か。その説明として最も適当なものを、次のイ～ホのうちから一つ選び、記号で答えよ。

イ 労働現場以上に教育課程において優先される、勤勉・効率という生産的価値を身につけるための行動。

ロ いずれは子どもたちを拘束する労働倫理を相対化するための、非日常的な価値観を準備するための行動。

ハ 子どもが知らず知らずのうちに身につけた能力や技術によって、大人の労働を側面から支えるための行動。

ニ コミュニケーションの手段として、相手の想像力や創造力を引き出し、それを生産に結合するための行動。

ホ 将来の労働に備え、集団行動やルールの遵守といった社会性や生産的な現場での適応力を身につけるための行動。

--

【練習問題】

次の文章を読んで、後の問に答えよ。

(注1) 左衛門の内侍といふ人はべり。あやしうすすろによからず思ひけるも、え知りはべらぬ、心
うきしりうごとの、多う聞こえはべりし。(注2)

(注3) うちのうへの、源氏の物語、人に読ま^(a)せ給ひつつ聞こしめしけるに、「この人は日本紀をこ
そ読みたるべけれ。まことに才あるべし」と、のたまはせけるを、ふと推しはかりに、「いみ
じうなむ才がる」と、殿上人などにいひちらして、日本紀の御局とぞつけたりける。いとを
かしくぞはべる。(注5) このふる里の女の前にてだに、つつみはべるものを、さるところにて才さか
しいではべらむよ。(注6)

(注7) この式部の丞といふ人の、童にて書読みはべりし時、聞きならひつつ、かの人はおそう読み
とり忘るるところをも、あやしきまでぞさとくはべりしかば、書に心入れたる親は、「口惜し
う、男子にて持たらぬこそ幸なかりけれ」とぞ、つねになげか^(b)れはべりし。

それを、「男だに、才がりぬる人は、いかにぞや、はなやかならずのみはべるめるよ」と、や
うやう人のいふも聞きとめて後、一といふ文字をだに書きわたしはべらず、いとてづつにあさ^(注8)

【出典】

『紫式部日記』

予習ガイド

1 重要語句

次の言葉を古語辞典で調べ
てみよう。

- はべり
- あやし
- すすろなり
- よし
- えく打消
- 心うし
- 聞こゆ
- 給ふ
- 聞こしめす
- 才
- のたまはす
- ふと

ましくはべり。

(注) 1 左衛門の内侍——筆者の同僚の女房。

2 しりうごと——陰口。

3 うちのうへ——帝(一条天皇)。

4 日本紀——『日本書紀』などの歴史書。漢文で書かれている。

5 ふる里の女——筆者の実家の召使いの女。

6 さるところ——宮中を指す。

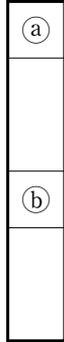
7 式部の丞——式部省の判官(三等官)。ここでは筆者の兄弟の藤原惟規のぶのり。

8 てづつに——無字で。

問一 二重傍線部①・②の助動詞の文法的意味として最も適当なものを、次のア～オの中からそ

れぞれ一つずつ選び、記号で答えよ。

ア 尊敬 イ 受身 ウ 使役 エ 可能 オ 完了



〔着眼〕 ○助動詞を調べよう。 資料Ⅱ

○いみじ

○いと

○をかし

○ふる里

○つつむ

○さかしいづ

○ふみ(書)

○さとし

○口惜し

○いかにぞや

○やうやう

○あさまし

2 古文常識

次の言葉を古語辞典や国語
便覧で調べてみよう。

○内侍

○殿上人

○局